



## 「こどもがまんなか」を合言葉に。令和5年度がスタート！

令和5年度が一気になだれ込むように始まりました。こども家庭庁が発足、こども基本法がスタートし、「こどもまんなか」の掛け声があちこちに響いています。しかし、同時に子どもが厳しい状況に置かれているニュースも次々と流れてきて、胸がふさがりような気持ちになります。改めて今こそ、地域の私たちが子育て家庭と手つなぎして、じっくり、ゆっくり、子どものペースで自ら育つことを支えていくネットワークをつくり続けていきたいと思えます。



5月17日、おかげさまで第19回総会が無事終了いたしました。今年度は世田谷区両親学級事業を新たに受託し、北烏山の高齢者の居場所づくり事業「ぶんぶくテラマチ」がオープンしました。来年20周年を見据え、私たちの活動もさらに広がっていきそうです。ぜひ引き続き応援してください。どうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 松田妙子

## <2023年1～6月:せたがや子育てネットの動き>

- ・「ティーンエイジ会議その後」開催@池之上青少年交流センター(1/14)
- ・厚生労働省地域子育て支援拠点研修@東京ウィメンズプラザ事務局担当(1/22)
- ・内閣府・子供の貧困対策推進室「子供の未来応援」取材(1/25)
- ・「第1回 こども天国」@経堂コルティ 開催(1/25)
- ・世田谷地域子育てミニメッセ@弦巻区民センター出展(2/4)
- ・そとあそびプロジェクト 砧プレーパーク見学/全区会議出席(2/5)
- ・ホームスタートオーガナイザー研修コーディネーター3名参加(2/11～2/13)
- ・世田谷区立砧小学校家庭教育学級 ワークショップ講師担当(2/22)
- ・産前・産後のセルフケア講座開講数増加に伴う研修実施(2/24・3/14)
- ・「ティーンエイジ会議その後」子ども基金に申請(3月)
- ・秩父宮ラグビー場ユニバーサルデザイン導入におけるアドバイザー就任(3月～)
- ・世田谷区両親学級を受託し、対面講座とオンラインにて実施スタート(4月～)
- ・せたがや子育てネット 第19回総会開催(5/17)
- ・おでかけひろば すぱーん5周年イベント開催(5/20)
- ・第4回 せたがや居場所サミット出展@駒澤大学(5/27)
- ・高齢者の居場所づくり受託「まちなかの縁がわ ぶんぶくテラマチ」オープン(6月)
- ・おでかけひろば ぶりっじ@roka&おりーぶ「らっこスペース」、すぱーん「らっこルーム」としてレスパイト事業開始(6月～)
- ・令和5年度第1回 区民版子ども子育て会議開催「基本計画から子ども子育てを考える～今こそ地域のネットワーク力で！～」参加者100名(6/1)
- ・赤ちゃんとのふれあい体験授業実施@烏山中(6/8、6/16)、尾山台中(6/28)
- ・「第2回 こども天国」@経堂コルティ 開催(6/29)



せたがや居場所サミット出展(5月)



ぶんぶくテラマチ オープン(6月)



区民版子ども子育て会議開催(6月)

### <代表理事 松田妙子 登壇・取材・寄稿>

- ・世田谷区青少年委員研修(1/26)
- ・ベネッセ教育総合研究所 子育て支援ウェビナー  
「働く母親の「子育て肯定感」を高めるには？」パネルディスカッション登壇(5/6)
- ・旬報社発行「月刊 社会教育 6月号」にてインタビュー記事掲載
- ・幼児教育専門誌「遊育」にて連載開始



ベネッセ教育総合研究所  
子育て支援ウェビナーの  
内容はこちらから。

## 世田谷区両親学級を受託しました！

せたがや子育てネットは、令和5年度より妊娠中の方とそのパートナーを対象とした両親学級を受託し、4月より運営が始まりました。東京都助産師会世田谷・目黒地区分会の助産師さんたちのご協力のもと、ファシリテーターにはおでかけひろばや地域の支援者が所属を越えてジョインしていただきました。これにより、コミュニティベースの両親学級を実現できました。子どもは地域で育っていきます。これから赤ちゃんを迎えるご家庭と一緒に子育てするチームに名乗りをあげて、「私たちがいるよ、大丈夫」とお伝えしています。

1年間に6500人生まれるまち、世田谷。たくさんの子どもの笑顔がひろがるまちになりますように、微力ながら地域の力を集めていきたいと思えます。



## まちの縁がわ「ぶんぶくテラマチ」が6月に誕生！



詳細ホームページ

シニア世代がいきいきと活動できるよう、新たなコミュニティづくりのお手伝いが、いよいよスタート！京王線・千歳烏山駅から徒歩15分の場所にある寺町通り区民集会所に開設した『まちの縁がわ ぶんぶくテラマチ』は、ゆっくりお茶を飲んだり、それぞれの得意なこと、好きなことを話したりしながら、みなさんの憩いの場所づくりを目指していきます。

元来「ぶんぶく」には、“湯がぶくぶくと沸き立つ音”“幸福を分け与える(分福)”という2つの意味があるそうです。コミュニティの場所がお寺に囲まれた寺町であること。また、地域のみなさんの笑顔がぶんぶくと沸き立つようにという想いを込めて、『まちの縁がわ ぶんぶくテラマチ』という名前が付けられました。

毎週火曜日14時14分からは「いーよ。いーよの呼吸」プログラムを実施。深呼吸のためにはまずしっかりと息を吐ききることから、という講師の先生の言葉には目から鱗が落ちました。口腔ケアは、嚥下障害の予防にもなるそうです。ほかにも、脳トレ教室やハンドマッサージ講座など、毎月さまざまなプログラムを計画中です。お近くにいらした際は、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



初日には、保坂区長もお祝いに駆けつけてくださいました。



毎週火曜14:14~14:44は呼吸サロンを開催中！



七夕の笹飾り。  
短冊に願いを  
込めました。

## 『すくすくコンパス』開講中！

昨年若林に完成した「世田谷区立教育総合センター」では、子育て家庭のライフスキルを身に付けるためのヒントを学ぶ「家庭教育・子育て支援講座“すくすくコンパス”」を開催しています。今年度も、5月15日に武田信子氏をお迎えし、子どもの権利を、身近な日常の生活の中から考えました。今後の開催日程は以下のとおりです。ご興味ある方は、ぜひご参加ください。

### 《2023年度すくすくコンパス スケジュール》

- ◆ 7月24日（月）汐見稔幸氏：乳幼児のこころとからだの発達を見守る環境づくり
- ◆ 9月 5日（火）阿真京子氏：小児医療のかかり方
- ◆ 10月23日（月）古野陽一氏：子どもとメディア
- ◆ 2月10日（土）西川正 氏：お父さんとあそぼ！（仮）
- ◆ 3月 9日（土）村瀬幸浩氏：おうち性教育



武田先生の講義のひとつ

※時間は各回10時~12時、参加無料、要申込。詳細は、世田谷区教育委員会「すくすくコンパス」でご検索ください。当日は、お子さんを連れて受講できるスペースがあります。プレママ・プレパパの方も参加可能です。

## 産前・産後のセルフケア講座 講座数を増やして開催中！

産前・産後のカラダの知識やケアの仕方、地域の子育て情報をお伝えする「産前・産後のセルフケア講座」。妊娠中の方と生後4カ月までの赤ちゃんとその保護者を対象とした無料の講座です。令和5年度は、講座回数が年間50回から75回と大幅に増え、区内25か所の児童館で開催しています。

講座では、出産を控えた妊婦さんと産後間もないママたちが自由に交流できるフリータイムも設けており、妊婦さんがママに子育ての質問をしたり、実際の赤ちゃんを抱っこさせてもらう場面も。また、参加者同士で日々の悩みや喜びを共有しあう様子もあり、これから一緒に子育てしていく仲間同士の出会いの場にもなっています。講座には地域子育て支援コーディネーターが同席し、身近な場所での相談につながりことも。オール世田谷で親子を見守っています。



カラダとこころをほぐして、気分をリフレッシュ！妊婦さんやママたちの交流の場にもなっています。

## 赤ちゃんとのふれあい体験授業の実施校、運営団体が拡大

世田谷区では、中学校の授業の一環として、生徒たちが実際に赤ちゃんを抱っこしたり、お父さんやお母さんから子育ての話を聞いたりする体験活動『赤ちゃんとのふれあい体験授業(通称:赤ちゃんを連れて学校へ行こう!)』を毎年実施しています。今年度は、せたがや子育てネットのほか、ケイズクレア、NPO法人子育て支援グループamigo、NPO法人砧・多摩川あそび村、一般社団法人北沢おせっかいクラブ、NPO法人ここよみの6団体が手を挙げ、区内各校の授業を担当します。

せたがや子育てネットは、6月と7月に烏山中と尾山台中に出向き、授業を実施しました。3か月～1歳2か月までの赤ちゃん親子が参加し、中学3年生の生徒たちとふれあい体験を行いました。日々の子育てや赤ちゃんに関するエピソードを聞いたり、元気いっぱい赤ちゃんの抱っこに試行錯誤したりと、充実した時間となりました。秋以降には、上祖師谷中、芦花中、玉川中、深沢中、東深沢中、奥沢中の計6校で実施予定です。授業の様子は、今後も『せたこそ通信』でレポートします！



子育てWebサイト『コクリコ』では、昨年の授業の様子がご覧いただけます。

## 「らっこスペース」でゆっくり休んで♪

「寝不足なので、少し体を休めたい」「スタッフにゆっくり話を聞いてほしい」など、ひとりで休憩できる『らっこスペース(らっこルーム)』が、6月より区内17か所のおでかけひろばに設置されました。「産後でへトへト…」「夜泣きでゆっくり眠れなかった」「ちょっとだけ横になりたい」・・・そんな時にふと思いついて、お気軽に利用していただけたらと思います。お子さんは、ひろばのみんなと一緒に見守ります。

利用対象は、世田谷区在住のプレパパ・プレママ、子育て中の保護者ならだれでもOK！費用は無料です。(施設により、要予約)  
当法人が運営する、ぶりっじ@roka、すぷーん、おりーぶでも実施しています。



利用希望の方は、各ひろばへ直接お問合せください。このラッコのマークが目印です♪

## ホームスタートぷちぷち始動！

地域の方々に子育て家庭を応援する具体的なアプローチ方法を学ぶため、せたがや子育てネットに在籍する地域子育て支援コーディネーター3名がイギリス発祥の「ホームスタート」にてオーガナイザー研修を受講しました。地域資源の開発として、ゆっくり、じっくり取り組んでいきます。

## せたがやこどもフードパントリーからお知らせとおねがい

「せたがやこどもフードパントリー」は、せたがやの子どもの食の応援プロジェクトです。2020年4月～2023年3月末までに135日間338回、のべ約25700食を提供し、現在も未就学から高校生世代まで約220家庭400人の子どもたちが利用しています。

今年も子どもたちやそのご家族が健やかに過ごせますよう、みなさまのご支援をよろしくお願い致します。ご寄付の詳細については、ホームページにて記載しております。ご協力よろしくお願ひいたします。



ご寄付の流れや日々の活動については、ホームページからご覧いただけます。

## ～理事のご紹介～

### 副代表 小林 ゆかり

長男の出産前にもっと地域の事を知っていたら、子育てのスタートも少し違ったかも…と思うことがあります。世田谷区に転入後、行政に関わる人材育成の場に託児コーナーがあり、そこで「世田谷にもファミサポを作ろう」という活動をしたり、2人目妊娠時は当時の勤務先のプロジェクトで、産前産後の口コミ情報を掲載する『OHESO CONNECTION (おへそネクション)』というサイトを開設しました。

そのほか、複数の団体情報を集めた『ママチャリねっとニュース』をグループで2年間発行し、児童館やメルマガなどで情報を発信したり、子育てサロン『おへそサロン』を主宰しました。また、赤ちゃんと同じプロセスで多言語を楽しむ『ヒポファミリークラブ』を地域で主宰するなど、自分がおもしろそうだな！と思ったことは、いろいろやってきました。『せたがや子育てネット』の立ち上げに関わったことが現在に続いており、最近では、出会う赤ちゃん連れの親が自分の子どもと同じ年代に…(^; おばあちゃんになっても当事者感覚を忘れたくないと思うこの頃です。



2022年夏、ヒポの無人島プログラムに参加



赤ちゃん体験授業では、代表松田と講師を担当

### 専務理事 入江 彩千子



経堂コルティで開催した「子ども天国」の様子。  
当日は、たくさんの親子でにぎわいました。

2010年春、産後すぐに世田谷区に引っ越して、土地勘も知り合いもないなか、初めての子育てに奮闘していました。そこで、「おでかけひろば ぶりっじ 子連れボランティア募集」のポスターを発見！ワクワクして応募するや友達にも地域情報にも恵まれ、私の育休は楽しすぎる時間に一変しました。まさにぶりっじは“青春の地”。地域とつながるだけでこんなに変わるのかと世田谷の良さを実感しました。

その後もご縁が続き、保育園情報を集めた冊子『せたがや子育てライフ』の編集に関わったり、保活セミナーを担当するようになったり。2017年に脱サラ(古?!)をしたのち、せたがや子育てネットにジョインし、今に至ります。地元では『経堂まちあそびの会』で、仲間と外遊びの場をつくる活動をしています。まちへの愛着があった上で子育てをすると、くらしがより楽しく豊かになりますね。

『セボネ』2023年7月号  
にてインタビュー掲載中



## 『せたがや子育てライフ』から、世田谷の子育て情報発信中!!!

地域子育て情報を『せたがや子育てライフ』のInstagramで発信しています。地域の方からの情報掲載も承っています。おでかけ先、週末の地域イベント、保護者向けの講座情報などなど、ぜひお役立てください♡



## せたがや子育てネットにジョインして、子育て環境を一緒に作りませんか？

子どもの名前をたくさん知っている大人や、ちょっとしたことでも地域に関心や役割を持つ人が増えると、子どもを通じて街が豊かになります。一緒に地域の子育て環境を作りませんか？

正会員 : 入会金なし、年会費 3,000円(個人)10,000円(法人)

賛助会員 : 入会金なし、年会費 3,000円(個人) 10,000円(法人)



【編集後記】春・夏合併号となった、今号のせたこそ通信。法人の6カ月間を振り返ってみると、新たな取組や活動が増え、改めて法人の勢いを感じました。次号は、どんな“せたこそ”を皆さんにお届けできるか、今から楽しみです！(Y)